

平成29年度

「運営に関する計画」



いまみや小中一貫校学校

平成29年4月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

平成27年4月に大阪府で三番目の施設一体型小中一貫校として開校し、大阪府で初めて3小学校と1中学校の統合を行ったところである。3小学校の統合と小学校と中学校との連携という作業、施設一体型小中一貫校としての取り組みの推進など、同時に進めなければならない課題も徐々にではあるが、解決しながら進めているところである。本市のめざす施設一体型小中一貫校として万全の機能を発揮できるところまで今少しの時間が必要である。

また、本校は西成区北東部にあり、学校周辺の環境問題、社会的な問題等を多く抱える地域である。その中にもあっても、子ども達は逞しく生きている。とはいえ、生活の状況が厳しい子ども達もまた多くいる。生活していくことが優先され、学習は二の次になりがちである。また、社会経験・体験が乏しい子どもも多い。

施設一体型小中一貫校として、十分な機能を発揮できる状況を創ること。子ども達に生きること、学ぶこと、体験することをしっかり身につけさせることが本校の当面の課題である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○平成32年度末の児童・生徒向け学校教育アンケートにおける「地震や災害などが起こった場合、どうしたらよいか学んでいる。」の項目について、「当てはまる」と答える児童・生徒の割合を90%以上にする。

○平成32年度末の児童・生徒向け学校教育アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」の項目について、「当てはまる」と答える児童・生徒の割合を85%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○平成33年度の全国学力・学習状況調査における「普段一日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」の項目について、「全くしない」と答える児童・生徒の割合を平成28年度より減少させる。

○平成33年度の全国学力・学習調査の「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目について、肯定的な回答をする児童・生徒の割合を80%以上にする。

○平成33年度の全国体力・運動能力調査において、調査項目総合の平均値を大阪府平均値より上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童・生徒の割合を 88% 以上にする。
- 平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童・生徒を前年度より減少させる。
- 平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童・生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 平成 29 年度末の児童・生徒向け学校教育アンケートにおける「地震や災害などが起こった場合、どうしたらよいか学んでいる。」の項目について、「当てはまる」と答える児童・生徒の割合を 83% 以上にする。
- 平成 29 年度末の児童・生徒向け学校教育アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」の項目について、「当てはまる」と答える児童・生徒の割合を 78% 以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 29 年度の小学校学力経年調査・中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ 100 となるように標準化した得点のこと）
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 5 割 5 分未満の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。
- 平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 3 割未満の生徒を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 5 割 5 分以上の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。
- 平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 3 割以上の生徒を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定

的に回答する児童・生徒の割合を、前年度より増加させる。

○平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、小学校は特に課題である反復横跳びとシャトルランの平均記録を、前年度よりそれぞれ 5 ポイント、10 ポイント向上させる。

○平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、中学校は特に課題である 50 m 走と立ち幅跳びの平均記録を、前年度よりそれぞれ 0.1 ポイント、3 ポイント向上させる。

学校園の年度目標

○平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における「普段一日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」の項目について、「全くしない」と答える児童・生徒の割合を平成 28 年度より減少させる。

○平成 29 年度の全国学力・学習調査の「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目について、肯定的な回答をする児童・生徒の割合を 70%以上にする。

○平成 29 年度の全国体力・運動能力調査において、調査項目の平均値で大阪市平均値より上の項目を 3 つ以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

--

いまみや小中一貫校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標通に達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。</p> <p>○平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童・生徒の割合を 88%以上にする。</p> <p>○平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童・生徒を前年度より減少させる。</p> <p>○平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童・生徒の割合を前年度より減少させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○平成 29 年度末の児童・生徒向け学校教育アンケートにおける「地震や災害などが起こった場合、どうしたらよいか学んでいる。」の項目について、「当てはまる」と答える児童・生徒の割合を 83%以上にする。</p> <p>○平成 29 年度末の児童・生徒向け学校教育アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」の項目について、「当てはまる」と答える児童・生徒の割合を 78%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>「いじめ」について、調査を行い、状況の把握をするとともに、児童・生徒との教育相談において普段からいじめの予兆も含めて捉えられるよう取り組む。</p> <hr/> <p>指標 ・年 2 回以上のいじめに関する調査を行う。</p> <p>・児童・生徒個人に対して年 2 回以上教育相談を行う。</p>	
<p>取組内容②【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>いじめ、不登校等児童・生徒の状況について校内全体で情報共有を図る。</p> <hr/> <p>指標 ・校内全体で、児童生徒の状況について、年 6 回以上情報共有を図る機会を設ける。</p> <p>・学校教育アンケート（児童・生徒向け）で「仲間はずれやいじめはない」の項</p>	

<p>目で肯定的な回答の割合を 90%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 各種防災・避難訓練等を行い、児童・生徒の防災意識の向上を図る。</p> <p>指標 ・各種防災・避難訓練等を年3回以上行い、そのうち1回は区役所・地域と連携する。</p>	
<p>取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】 生活・総合等に関わるカリキュラムを小中一貫校として9年間を見通したものに再編成を行う。</p> <p>指標 ・1年生から9年生までのつながりをもった、また地域と連携・協働した体験・学びをめざした新しいカリキュラムを研究し、作成する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

いまみや小中一貫校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標通に達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○平成 29 年度の小学校学力経年調査・中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ 100 となるように標準化した得点のこと）</p> <p>○平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 5 割 5 分未満の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。</p> <p>○平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 3 割未満の生徒を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。</p> <p>○平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 5 割 5 分以上の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。</p> <p>○平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 3 割以上の生徒を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。</p> <p>○平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童・生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>○平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、小学校は特に課題である反復横跳びとシャトルランの平均記録を、前年度よりそれぞれ 5 ポイント、10 ポイント向上させる。</p> <p>○平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、中学校は特に課題である 50m 走と立ち幅跳びの平均記録を、前年度よりそれぞれ 0.1 ポイント、3 ポイント向上させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における「普段一日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」の項目について、「全くしない」と答える児童・生徒の割合を平成 28 年度より減少させる。</p> <p>○平成 29 年度の全国学力・学習調査の「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目について、肯定的な回答をする児童・生徒の割合を 70%以上にする。</p> <p>○平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、大阪市平均値より上の項目を 3 つ以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子どもひとり一人の状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>電子黒板やタブレット等、ICTを学習活動で活用し、自分の考えをまとめたり、説明したりする力を高める。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用回数を全活動時間の25%以上にする。 ・年間計画を作成し、実践研修会と学校公開を開催する。 	
<p>取組内容②【施策5 子どもひとり一人の状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>漢検・英検等に挑戦したり、各自の苦手な学習を克服したりする「チャレンジタイム」や自主学習を行う「放課後チャレンジ教室」（小学生対象）、元気アップ事業を活用した「テスト前学習会」等（中学生対象）を設定し、基礎学力の定着を図る。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケート（児童生徒向け）で「自分で目標を定め、目標に向かってがんばることができた」の項目で肯定的回答をする児童生徒の割合を78%以上にする。 	
<p>取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>児童・生徒の委員会活動を中心に、「健康に気をつけて生活をする」ことの大切さについて、日常的に呼びかける。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の児童・生徒アンケートにおいて、「起きる時間や寝る時間が決まっていて、健康に気をつけて生活をしている」に対して、肯定的な回答を60%以上にする。 	
<p>取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>運動部の活動の活性化や児童集会などでの運動的な取組を充実させ、運動に親しむ機会を増やす。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の児童・生徒アンケートで「からだを動かしたり、運動したりすることが好きである」の項目で、肯定的回答をする児童生徒の割合を80%以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	